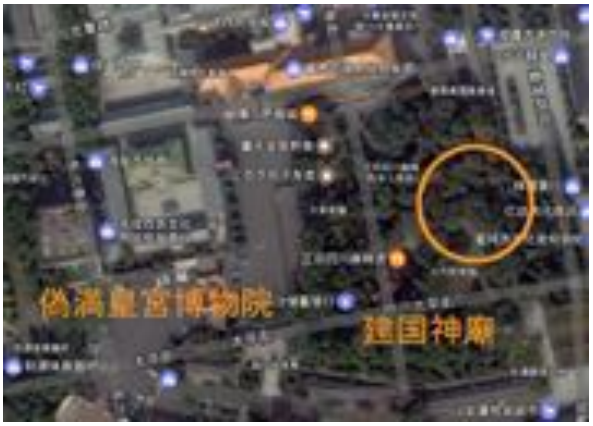
満州国

■ 伊勢神宮内宮 1436.19km － 建国神廟 － 伊集院護国神社 1436.19km
■ 伊勢神宮内宮 1433.03km － 建国忠霊廟 － 熊野本宮大社 1433.03km
■ 皇居宮中三殿 1529.27km － 建国忠霊廟 － 茨城県護国神社 1529.27km

建国神廟（長春市）

1940 年（昭和 15 年）、満洲国首都・新京特別市の満洲国帝宮内に創建された。祭神は日本の皇室の祖神とされる天照大神。天照大神は、満洲国建国の元神ともされていた。

1940 年 7 月 15 日の払暁、建国神廟鎮座祭が執り行われ、天照大神の神降ろしが行われた。その後、満洲国皇帝・溥儀は文武百官を集め、「惟神（かむながら）の道」を国の基本とする「国本奠定詔書」を宣布した。また、建国神廟の祭祀・運営を所管する皇帝直隷機関として、同日付で祭祀府が新たに設置された。祭祀府総裁には、満洲国参議府副議長で元日本陸軍中将・近衛師団長の橋本虎之助が任命された。建国神廟の創建は溥儀の発案とされる。1935 年（昭和 10 年・康徳 2 年）の初訪日で、溥儀は日本皇室の影響を大きく受けるとともに、昭和天皇の威光と一体化することで、日本軍人・官僚勢力に対抗しようとした。その中で、天照大神への傾倒を強めていった。　満洲国新京特別市帝宮内



しくみ ～定規とコンパス～「明治～現代編」2017

伊集院護国神社

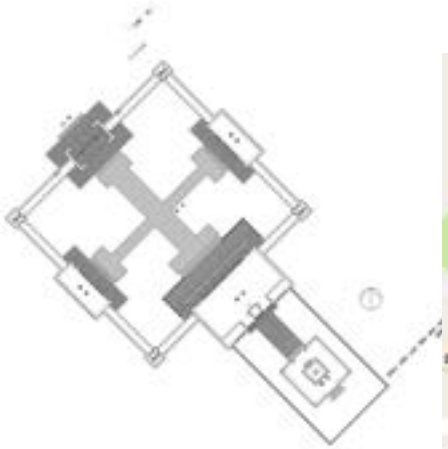
戊辰の戦役以来の各戦役で殉死した者、並びに国事公職に殉職した者の霊を祀る。明治 2 年 7 月 29 日に創建され、伊集院招魂社と称し、昭和 14 年 4 月 1 日伊集院護国神社と改称された。祭神/石神為兵衛他 673 柱　鹿児島県日置市伊集院町大田

建国忠霊廟（長春市）

満州国に殉じた英霊を祀った宗教施設、慰霊施設。いわば満州国版「靖国神社」である。建国神廟の摂廟とされ、満州国祭祀府が所管するが、建国神廟とは異なり神社形式ではない。1940 年（昭和 15 年・康徳 7 年）9 月 18 日、新京の大同大街の南端に鎮座・創建された。神体は、建国神廟と同様の白銅製の紐付きの丸鏡である（大きさは建国神廟のものよりも小さい）。社殿は中国風を基調とする建築で、屋根は瑠璃瓦葺であった。本殿、拜殿、回廊、角楼などで構成されていた。

日本の関東軍によって 1932 年に「建国」された、傀儡（かいらい）国家「満洲国」。その統治も当然、日本軍のむき出しの暴力によって行われた。建国から数年を経て、関東軍および満洲国政府は権力支配を円滑化するため、一般民衆に「満洲国民」としての意識を無理やり植えつけることを試みる。そこで、「建国」の犠牲となった「英霊」（ほとんどが日本軍人）を祀り、「国民」に参拝を強要する施設（日本の靖国神社に当たる）を建設した。それがこの「建国忠霊廟」。Renmin St, Chaoyang, Changchun, Jilin, 中国

http://datyz.blog.so-net.ne.jp/2013-06-15



伊勢神宮内宮

天皇が初めて伊勢神宮を訪れたのは、伊勢神宮創建（日本書紀）から一六〇〇年も後に、明治二年（一八六九）三月。この月二八日に行われた東京遷都に先立ち、明治天皇が十二日に外宮、続いて内宮を親拝した。この後も明治五年、十三年、三八年と計四度訪れている。大正天皇は病弱であったために大正四年（一九一五）に一度だけだが、その代わり皇太子、後の昭和天皇が大正四年、五年、八年、十年に二度、十三年と六度、即位後には昭和三年、四年、十七年、二〇年、二七年、二九年、三七年、四六年、四九年、五〇年、五五年と御拝されている。昭和天皇が皇太子時代も含めて二〇回近くも訪れているので、天皇は伊勢神宮に親拝するものという思い込みが誰にでもあるが、明治時代前には誰一人として一度も訪れていないのである。

一〇代崇神天皇は「神の勢いを畏れて、共に住みたまふに安からず。(日本書紀)」と言って、天照大神の祭祀を宮中から外に出したのである。しかも『延喜式（九二七)』に載る宮中三六神の中に、出雲神の事代主の名前はあっても、天照大神の名は無い。宮中の賢所に祀られたのは後世のこと。

明治時代の「国家神道」というものが、いかに日本本来の歴史と伝統からかけ離れた「作られた伝統っぽい文化」だったことの証拠のひとつ。ほとんどの日本人が、古代から天照大神の祭祀こそが、国家最大の祭事であったかのように思い違いをしている。それは古代の大和朝廷ではなく、近代の明治政府が決定したことに過ぎない。http://ameblo.jp/shimonose9m/entry-12106995436.html

熊野本宮大社

1871 年（明治 4 年）に熊野坐神社（くまのにますじんじゃ）として国幣中社に列格し、1915 年に官幣大社に昇格した。現在の社地は山の上にあるが、1889 年（明治 22 年）の大洪水で流されるまで社地は熊野川の中州にあった。明治以後、山林の伐採が急激に行われたことにより山林の保水力が失われ、大規模な洪水が引き起こされ、旧社地の社殿は破損した。現在、旧社地の中州は「大斎原」(おおゆのはら)と呼ばれ、日本一高い大鳥居（高さ 33.9m、横 42m、鉄筋コンクリート造、平成 12 年完成）が建っている。

「熊野権現垂迹縁起」によると、熊野坐大神は唐の天台山から飛来したとされている。熊野坐大神（家都美御子大神）は、須佐之男命とされるが、その素性は不明である。太陽の使いとされる八咫烏を神使とすることから太陽神であるという説や、中州に鎮座していたことから水神とする説、または木の神とする説などがある。家都美御子大神について他にも五十猛神や伊邪那美神とする説があり、菊理媛神とも関係する説もあるが、やはりその素性は不詳とされる。古代から中世にかけて、神職はニギハヤヒの後裔で熊野国造の流れを汲む和田氏が世襲していた。

創建：不明（伝崇神天皇代、B.C.33 年?）旧社格：式内社（名神大)、官幣大社（現、神社本庁の別表神社）かつては湯立が行われており、「熊野権現垂迹縁起」では大斎原が「大湯原」と表記されていることや、熊野をユヤと読む際に湯屋や湯谷の字をあてられたことなどから、熊野信仰の中核に湯の観念があったことが指摘されている。和歌山県田辺市本宮町本宮１１１０

茨城県護国神社

当護国神社は、我が国の永遠の平和と隆昌とを願いつつ、日本民族を守るため尊い生命を国のために捧げられた人々の御霊をお慰めしようとする、全県民の深い敬愛と尊崇の念が結集して、昭和１６年１１月水戸桜山の現在地に創建されました。

御祭神には幕末から明治維新以来、日清・日露の戦役、大東亜戦争に至る事変戦役等において、国事にたおれ護国の礎となられた茨城県出身の６３，４９４柱の戦役者の英霊をお祀り申し上げております。こんにちのわが国の安泰と繁栄が、これら御祭神となられた方々の献身奉公によってもたらせられたことに思いをいたし、深くその御神徳を崇め末永くこのお社を護持していただきたいと念願するものであります。

当護国神社は徳川幕府政府体制から、近代国家体制へと大きく生まれ変わろうとする時代、幕末から明治維新にかけて国のために殉じた水戸藩関係の烈士等１千８百余柱の御霊を御祭神として、明治１１年、水戸市常磐神社の境内地に、社名を「鎮霊社」として創祀された。

明治１０年の西南の役、日清戦争等による茨城県出身の戦役者の合祀がおこなわれ、広く全県下の戦没英霊の御霊を奉斎する神社となる。 日露戦争、日支事変等の戦没御祭神は日を追うごとに急激に増加し、創建当時の御社殿では狭隘となっていた。

終戦直後から中絶されていた大東亜戦争戦没者の御霊の合祀を再開、現在そのほとんどの奉斎を完了、その数、実に６３，４９４柱をかぞえる。　茨城県水戸市見川１丁目２−１

備考

こんなに離れていてもピンポイントで繋がる。建国神廟は未だに礎石が残され、建国忠霊廟も草に覆われながらも解体されないで残っている。未来の再興のために眠らされている聖地なのだろうか。茨城県護国神社と繋がっているのは、幕末の水戸藩が長州藩と水面下で盟約をむすび維新に至る大役を果たしたからか。尊攘活動で殉じた 1800 人の御霊を祀る。建国忠霊廟、伊集院護国神社、茨城県護国神社と、数多の尊い戦没者の気とそこに参拝する国民の気を利用して作られた仕組みといえる。死してもなお御霊は休まれない。

満州国に集まる予定だった気を宮中三殿や伊勢神宮に集めるしくみ。